

平成23年1月14日

南砺市長 田中幹夫 殿

農事組合法人富山干柿出荷組合連合会
会長 仲 筋 英



要 望 書

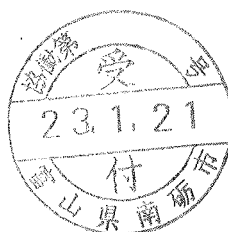
貴殿におかれましては、市政の発展、地域農業・農村の振興・活性化に努められ、また「富山干柿」の振興に力強い御尽力を頂き有難うございます。

平成22年の異常気象は、干柿生産者にとりまして、過去に経験のない気象災害の連続の一年間でありました。春の低温、降霜害に始まり、猛暑日（16日間）、真夏日（66日間）の連続や干ばつ、干柿の収穫・乾燥時期における低温・多雨などの災害の多発でありました。

水稻の品質低下による一等米比率低下をはじめ、農作物全般に被害が発生し、私達干柿生産にとりまして、春の開花期の低温・霜害によると思われる着果不足、溝のある変形果・ヘタスキ果の発生、夏期の記録的な高温・乾燥による生育障害により、日焼け果・未熟果や小玉果に加え、着色・収穫の遅れとなり、熟度不足は良品製造・販売適期の遅れなどに大きな影響が出ました。

その結果、22年度の生産販売数量は、前年度と同じ480万個程度にとどまり、2年連続平年（550～600万個）の2割減となりました。病害虫の面においても、カイガラ虫の異常発生により、防除回数の増加・労力の増加を余儀なくされました。米価の下落をはじめとして、農業収入の低下に加え、燃料や肥料などの生産資材費の増大により、農家経営への影響が甚大であります。

昨年、御貴殿の多大なる御支援により、富山干柿自動包装機的能力増強をさせて頂き生産者一同、生産の拡大と良品生産に意欲を新たにし、生産に取り組みましたが、残念な結果となり、生産意欲高揚の面からも、下記の要望をご理解のうえ、緊急に力強い御支援を切にお願い致します。



要望事項

一、昨年の記録的な猛暑の影響による柿木の樹体回復を早期に図るため、又、昨年導入した堆肥散布機の利用拡大を図り、エコファーマー認定の目的達成のため、堆肥等による樹園地土作り資材に対する支援を行って頂きたい。

一、富山県の特産品として、富山干柿出荷組合連合会としても自らの努力により、贈答用に消費の拡大を図っているところですが、更なるブランド化に向け、宣伝広報等の充実と学校給食や新たな干柿やあんぽ柿を使った商品開発により、より一層の消費拡大の支援を頂きたい。

一、生産者の高齢化により、今後放棄園の増加等が懸念される中、意欲的な生産者の拡大と、後継者の育成を図るため、園地の集約・受委託に対して、生産拡大のための支援や、施設・機械の更新増強等に対する諸施策の充実をお願いしたい。

平成 22 年産三社柿の減収要因について

砺波農林振興センター

・変形果、すじ果の発生

三社開花前の 5 月下旬から 6 月の低温の影響で花芽分化に異常が発生した。摘果の終わった、7 月中旬頃から三社柿に変形果、すじ果が目立ち始めた。無作為の発生率調査では約 17% 程度となった。

変形果、すじ果の例



・日焼け果の発生と肥大不良

夏季の連日の高温乾燥の影響を受け、果実に日焼けが発生した。無作為の発生率調査では約 10% 程度となった。

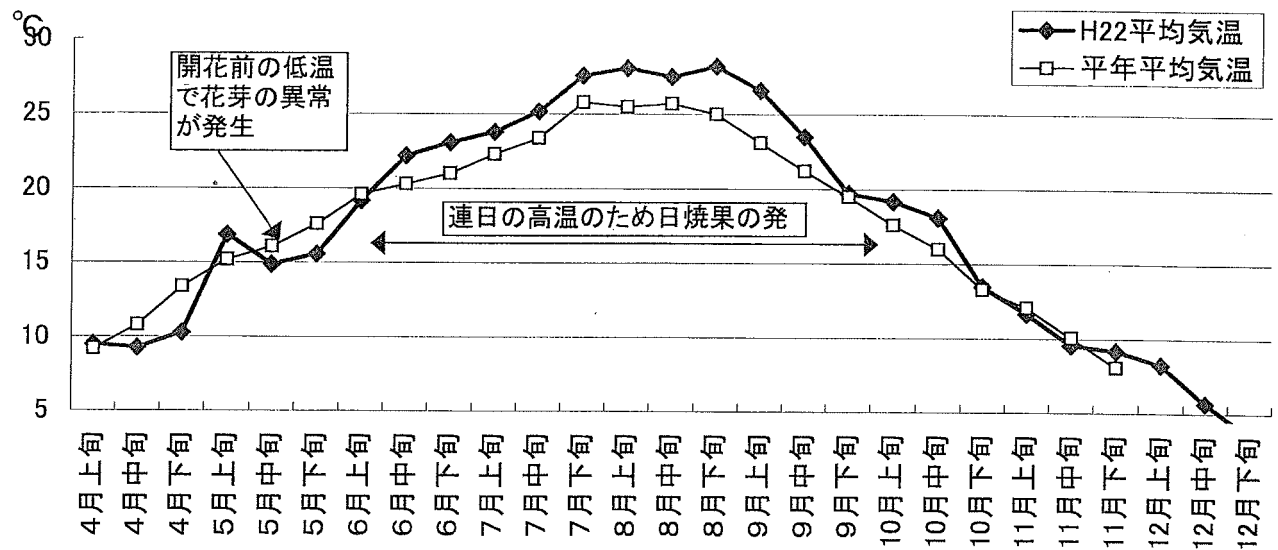
また、日焼けの障害を受けなかった果実も肥大が平年よりも悪くなり、出荷された干柿の大きさが小さくなった。



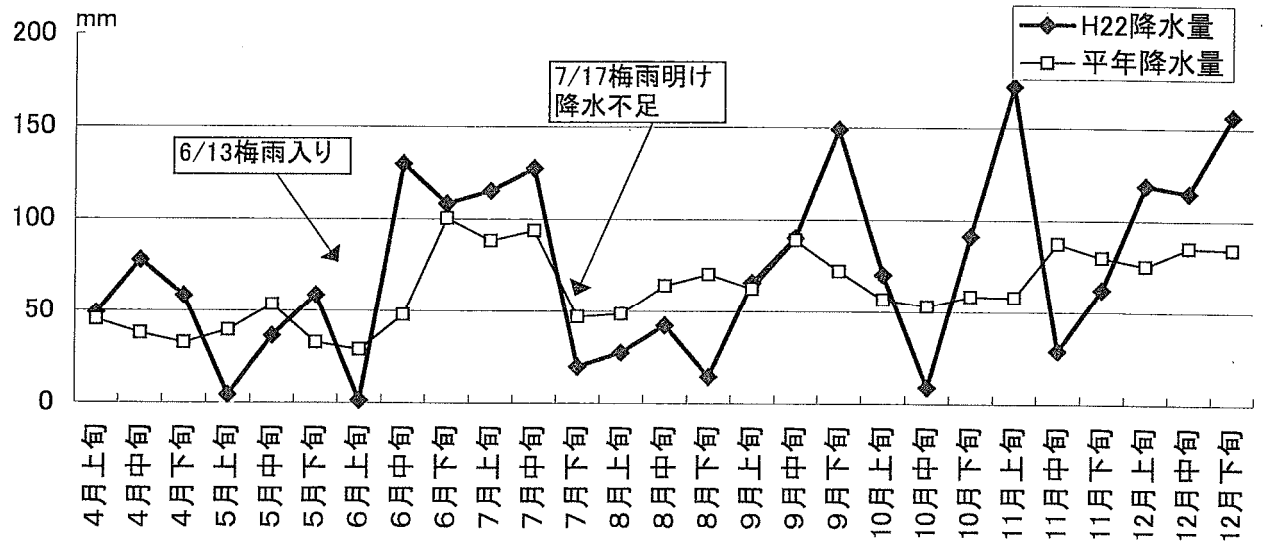
気温(°C)

平成22年の気象経過

観測地点:南砺市高宮



降水量



日照時

